

## 第4回低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ概要

日時：平成23年11月25日（金） 17：45～19：45

場所：内閣府本府仮設庁舎講堂

出席者：

（有識者） 甲斐倫明氏、神谷研二氏、児玉龍彦氏、近藤駿介氏、酒井一夫氏、佐々木康人氏、長瀧重信氏（共同主査）、丹羽太貫氏、前川和彦氏（共同主査）

[五十音順]

（政府側） 細野原発事故の収束及び再発防止担当大臣、園田内閣府大臣政務官、佐々木内閣官房副長官補、菅原原子力被災者生活支援チーム事務局長補佐、鷺坂環境省水・大気環境局長、伊藤内閣審議官、矢島内閣審議官

議事：低線量被ばくにおけるリスク管理の考え方

1. 児玉龍彦 東京大学先端科学技術研究センター教授より、「内部被ばくと外部被ばく」、甲状腺がんに関する知見のほか、「国土を守り国民とともに生きる5項目提案」として、「1. 除染には覚悟と決意がいる」、「2. 食品全品検査を可能にする機器開発を」、「3. 汚染森林の除染と発電をベースとした復興」、「4. 常磐自動車道の早期開通へ」及び「5. 高線量地区住民に新しい町を」について説明。

◆上記について質疑応答

2. 甲斐倫明 大分県立看護科学大学教授より、「ICRP はなぜ LNT モデルを考えるか」、「検証が困難な放射線リスクの大きさ」、「内部被ばくのリスクは線量で知る」、「防護の最適化は、放射線を含めた様々なリスクに配慮放射線に対する反応」及び「今後の課題」等について説明。

◆上記について質疑応答

以上